

第一部：経済、政治とマレー人社会からみた Wawasan 2020 の時代

穴沢真会員：

モデレーターを務めます小樽商科大学の穴沢です。今年から JAMS の会長を務めています。私は経済の専門家としてマレーシアを見てきました。本日のテーマである Wawasan2020 について、経済学者は 2020 年までに先進国入りするという点に注目してきました。しかし、マハティール氏が述べた Wawasan2020 は経済だけでなく、社会全体、国全体の将来を標榜したものといえます。ある意味、ルックイーストにも通じるような、西洋とは異なる社会を形成するという基本的な考え方も言外に滲ませているのではないかと思います。

Wawasan2020 はマハティール氏という稀代の政治家が残した1つの遺産であると思います。私自身はこの 2020 年の時点でマハティール氏がまだ現役にいるということは考えておりませんでした。彼は将来像のみを提示して引退してしまっていると思っておりましたが、持ち前のしぶとさで、2020 年の時点で、今でもまだ現役で、しかも首相として活躍していることに驚愕しています。まさに人生 100 年時代を代表するような方といえます。

Wawasan2020 は、少し歴史を遡りますと、1970 年代から始まった新経済政策、そしてブミプトラ政策などある意味、主にマレー人の各分野での地位の向上の延長線上にあるのではないかと思います。1991 年に公表された Wawasan2020 ですが、ISIS（国際戦略研究所）の所長（当時）、ノルディン・ソピー氏が原案を作成し、それをマハティール氏が採用したものであります。30 年という長いタイムスパンのビジョンは世界的に見ても珍しいのではないかと思います。本日はラウンドテーブルの形式で様々な分野の方からお話をうかがいたいと思います。

さらに今回、大会全体を通じて若い方々に発言していただきたい、また、報告していただきたいと思い、それにあわせて人選も進めました。JAMS として、また、会長として、若手研究者の育成を念頭に置いた研究大会を標榜し、理事の先生方にもご協力をいただきました。

話題提供の第 1 部では、「経済、政治とマレー人社会からみた Wawasan2020 の時代」というテーマで 3 名の方々に順次報告をしていただきます。